

海溝型(南海トラフ)地震の震源・波源モデルの設定方針

1. 最大クラス

(1) 南海トラフ【津波】

⇒ 発生頻度は極めて低いものの、発生すれば、香川県において甚大な被害をもたらす最大クラスの津波を引き起こす波源モデルを設定

- 内閣府が、8月29日に公表した津波高、浸水域や人的・物的被害想定の内容等を踏まえ選定

(2) 南海トラフ【地震動】

⇒ 発生頻度は極めて低いものの、発生すれば、香川県において甚大な被害をもたらす最大クラスの地震を引き起こす震源モデルを設定

- 内閣府が、8月29日に公表した震度分布や人的・物的被害想定の内容等を踏まえ選定

2. 発生頻度の高いもの

(1) 南海トラフ【津波】

⇒ 発生頻度が高く、津波高は低いものの、発生すれば、香川県において大きな被害をもたらす津波を引き起こす波源モデルを設定

- 海岸堤防・護岸などの高さの基準となる設計津波の水位を設定
- 数十年～百数十年の頻度で発生している津波を対象に設計津波の水位を設定
- 内閣府が、8月29日に公表した発生頻度の高い津波の基本的な考え方を踏まえ選定

(2) 南海トラフ【地震動】

⇒ 発生頻度の高い津波の波源モデルと同一のモデルに設定